

---

# マザーテレサよりも優しい人

ネッシー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マザー テレサよりも優しい人

### 【著者名】

ネッシー

N1355G

### 【あらすじ】

優しすぎるだろ？…と、思わずシシリミたくなるよつな、そんな子たちのお話です。

あいつはバカだ、映画の中のチャップリンよりアホだ！

\*

俺の友達に世界一優しい奴がいる。親友じゃない、友達だ！  
まあ、幼なじみという奴なんだけれども…。

えつ？なぜ世界一かつて？

そりや見りやわかる。

今日は、あいつこと太陽の事を紹介していこう！

太陽はその名の通り、明るくて人の良さそうな顔をしている。

だから、よく人に道を聞かれたりする。

そして期待を裏切らず笑顔でこいつ返すのである。

「はいっ！　じゃあ一緒に行きましょーか！」

そして、俺にこう来る

「ダン、俺道分からぬから道教えて!」

「…」

俺が道分からなかつたらどうすんだ!

と思つて聞いた事があるが、

「携帯のGPSで行けるかな?」

だそうだ。

今俺らは大学生だから、一いつ人達に付き合つてもなんとかなつたが、

高校生の時は遅刻の嵐で、風邪なんか引いた事無いのに出席日数ギリギリだった。

ちなみに俺じゃ無いぞ太陽がだぞ?

俺は適当に地図作つて、先に学校行くだけだったから。

前にこんな事があった、ちなみに一度ではない。

学校へ行く途中

「すみません…」

と声が掛けられる。  
またいつものか、と思って振り返ると、前歯が欠けていてちょっと  
氣味が悪いお婆さんだった。

しかしそんな」と、ものともせず、隣のバカは笑顔で答える。

「どうしたんですか？お婆さん？」

「ペ×ゴ〇で地震があつて、そこの人達を助ける為に募金してくれませんか？」

残念ながら地名は聞き取れなかつたが、そんな感じの事を言い、空  
ティッシュ箱を差し出してきた。

つていうか、あからさま怪しいが、隣のアホは…。

「それは大変ですねー」これで少しでも足しにして下せー。」

と言い、諭吉さんを取り出す。

お婆さんはしわくちゃの皿を見開いて

「あっがとうござります。」

と聞き取りにくい声で言い、俺らが離れた後もずっと両手を合わせて太陽の事を拝んでいた。

あのお婆さんは寄付なんかしないで、あのお金を使いだらけ。

そんなこと分かってる、それでも俺が何も言わなかつたのはワケがある。

言つても聞かないというのもあるが、コイツは知つているのだ。

あのお婆さんがウソをついたのを。

そして、そういう人達はそういう嘘をつかなければならない理由がある。

と、いう事だそうだ。

まあ俺には全然理解出来ないが、人の信念を強制するつもりは無いから黙つとくだけ。

「なあ、お前昼代あげちゃって、今月飯ビツすんの?」

「ま、まあ、人間昼なんか食わなくて何とかなるでしょー!」

とか笑いながら言つ。

まあ

「アホ」

としか、言いようがない。

\*

太陽は小中高の卒業文集で、ほとんど同じ事を書いている。

まあ、文章は年々上手くなってきてるが、テーマは同じだ。

「世界平和っ！」

…アホだと思つだらうがマジである。

しかも、どんどん理屈つぽくなつてきていて、高校の作文なんかを見ると「コイツは本当に世界を平和に出来るんじゃないか?」と思えてくる。

太陽は優しい。

映画で誰かが死ぬとすぐに泣く

そして、誰かが傷つけられるとメチャクチャ怒る。

何か行動するときは、おせつかにじゃなく、ちゃんとその人の事を考えて優しくする。

コイツの思考回路の中を見てみたら、90%以上「他人」が占めているだろ?。

ということは、太陽は自分の事を考えていないのが分かるだろ？

アイツは人に頼らなくて、全て自分でやるうつとする。

頼るのは俺のみ、しかも、人を助ける時限定。

わがままなんて聞いた事無い……。

⋮

いや、あつたわ

\*

うちの高校の時のクラスにはスゴく気持ち悪い奴がいた。

いつも同じ服を着てて、変な臭いをさせていて、喋っている所を見たことがない。

はっきり言って気持ち悪い、そいつの周りにはいつも1メートル位の空間が出来る。

昼休みに、みんなでトランプを始めようとしていた時、突然太陽が  
……。

「溝口君も入れない？」

と言い始めた。

一瞬誰だか分からなかつたけど、太陽が指を差している方向を見て  
納得した。

そして、全員がいやな顔をした。

それを見て太陽は、悲しそうな顔をして

「じゃあ、今日は俺も入らない」

と言ひ放ち、どこかへ行つてしまつた。

そこに居たみんなは罪悪感の塊になる。

太陽の優しさは分かるのだが、あの臭さの中ではトランプの楽しみ  
も半減するだろう。

その日は、用事があるからと太陽は言い、一緒に帰らなかつた。

…次の日

まだ、怒つてるかな？

とか、思いながら教室まで着くと、知らない人が居た、しかも溝口の席に…。

色白でサラサラの髪をしていて、男に「こんな事言つのも変かもしないけど、素直に綺麗だと思った。」

近くを通ると少しいい匂いがした。

もうつ來ていた友達に確認する。

「あの子、誰だか分かる？」

「ああ、わかんねえけど可愛くな?」

「男じやねーか…。」

「まあまあ、可愛い事はたしかだろ?」

「まあまあ」

「でも、あの子座つてんの、アレの席だろ? 僕行つて来るわ!」

と言ひ、そいつが行ひはじめてゐる時、丁度太陽が入ってきて、その子に向かつて、いつ言った

「おはよう一溝口君一」

ビックリした……けど、俺しか気づいていない。

「なんだよ、太陽知り合いかよー！ 俺にも紹介してよ溝口君ー。」

「えつ？毎日ここに座つてんじやん」

「はあ？なに言つてんの？…こいつも座つてたのね、あのボサボサ頭の臭いやつだろ？」

「それ以上、溝口君の腰の殴るよ？」

「…………マジ?」

「マジ」

「…」

太陽は一〇一一〇三へる

「そ、そうか、あの溝口だつたか！そ、うかそ、うか、あの溝口がダイ  
ヤの原石だつたとは、氣付かなかつた！ハハハ…」

「…」

溝口は喋らない

「…」  
「めんつ！氣付かなかつたんだつて、だつてこんなに、き、キ  
レイになつてると思わなくて！」

「…」

「ほ、ほり笑おうぜ、な、な

「…」

無理やり笑顔を作ろうとしている

「ちひげえよーなんて言つのかな…」つーん

「…」

溝口は困っている

「よ、よし分かつた、今から笑わしてやるからなー。」

そういってゐる間に太陽は俺の隣まで来ていた。

「なあお前だろ?」

「何が?」

「…まあいいぜ」

今、溝口は俺の友達によつて腹を抱えて笑わされている

\*

太陽のわがままというのはいつもこんな感じ、  
アイツのわがままというのは、わがままなのには人のため、  
それも、社会的立場が弱い人の為だけに使う。

これはもう、わがままでは無いのかもしれない。

こんな人の為ばかり考えて、自分の利益になることを全くしない。

あいつにこんな事を言つたら

「人の幸せは俺の幸せっ！」

と書いて笑うだろう。

俺はこんな優しい奴が、まあ嫌いじゃない。

～end～

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1355g/>

---

マザーテレサよりも優しい人

2010年11月25日14時06分発行